

平成 28 年度化学物質環境実態調査の進捗状況

平成 28 年 12 月 20 日
環境保健部環境安全課

1. 調査内容

(1) 初期環境調査

環境リスクが懸念される化学物質について、一般環境中で高濃度が予想される地域においてデータを取得することにより、化管法の指定化学物質の指定、その他化学物質による環境リスクに係る施策について検討する際の基礎資料等とすることを目的としている。平成 28 年度は、表 1 に示す物質を調査対象とした。

(2) 詳細環境調査

化審法の優先評価化学物質のリスク評価等を行うため、高濃度が予想される地域を含む一般環境中における全国的なばく露評価について検討するための資料とすることを目的としている。平成 28 年度は、表 2 に示す物質を調査対象とした。

(3) モニタリング調査

化審法の特定化学物質について、一般環境中の残留状況を監視すること及び POPs 条約に対応するため、条約対象物質等の一般環境中における残留状況の経年変化を把握することを目的としている。平成 28 年度は、表 3 に示す物質を調査対象とした。

2. 精度管理

初期環境調査及び詳細環境調査においては、複数の分析機関が同一の化学物質の分析を行うため、分析機関間の差異及びばらつきが生じる恐れがあることから、これらを事前に把握し、対策を行うことを目的として、化学物質環境実態調査精度管理等業務を実施した。平成 28 年度の同業務の概要は以下のとおり。

- (1) 共通の標準物質等(内標準物質及びサロゲートを含む。)を配布。
- (2) 標準物質を調製、各分析機関に配布し、ラウンドロビンテストを実施。

また、モニタリング調査においては単一の分析機関による分析であるが、過年度からの継続性を担保するため、国立研究開発法人国立環境研究所及び有識者によって分析機関へ立入調査を行い、実施状況が適正であることの確認を行った。

表1 平成28年度初期環境調査対象物質

番号	調査対象物質	調査媒体			要望施策
		水質	底質	大気	
1	1-アミノ-9,10-アントラキノン				化管法
2	2-イミダゾリジンチオン				環境リスク 初期評価
3	1,3,5(10)-エストラトリエン-3-オール-17-オン (別名:エストロン)				EXTEND
4	1,2-エポキシ-3-(トリルオキシ)プロパン				化管法
5	シアン化水素				大気環境
6	2-(2,6-ジクロロアニリン)-フェニル酢酸ナトリウム (別名:ジクロフェナク)				EXTEND (PPCPs)
7	(1 <i>S</i> ,4 <i>S</i>)-4-(3,4-ジクロロフェニル)- <i>N</i> -メチル-1,2,3,4-テトラヒドロナフタレン-1-アミン (別名:セルトラリン)				EXTEND (PPCPs)
8	5,5-ジフェニル-2,4-イミダゾリジンジオン (別名:フェントイン)				EXTEND
9	ジフェニルジスルファン(別名:ジフェニルジスルフィド)				環境リスク 初期評価
10	3,3'-ジメチルベンジジン (別名: <i>o</i> -トリジン)				環境リスク 初期評価
11	トリス(2,3-ジブロモプロピル)ホスフェイト (別名:リン酸トリス(2,3-ジブロモプロピル))				大気環境
12	<i>m</i> -ニトロトルエン				化管法
13	<i>p</i> -ニトロフェノール				化管法
14	ヘキサメチレンジアミン				環境リスク 初期評価 大気環境
15	(3 <i>S</i> ,4 <i>R</i>)-3-[(2 <i>H</i> -1,3-ベンゾジオキシル-5-イルオキシ)メチル]-4-(4-フルオロフェニル)ピペリジン (別名:パロキセチン)				EXTEND (PPCPs)

注: は初めて調査するもの、 は過去にも調査しているもの (以下同様)

表2 平成28年度詳細環境調査対象物質

番号	調査対象物質	調査媒体				要望施策
		水質	底質	生物	大気	
1	アニリン					化審法
2	安息香酸ベンジル					化審法
3	エチルアミン					化審法
4	エチルベンゼン					化審法 環境リスク 初期評価
5	エチレンオキシド					化審法
6	エチレングリコール					化審法
7	クロロメタン (別名:塩化メチル)					化審法
8	4,4'-ジアミノ-3,3'-ジクロロジフェニルメタン (別名:4,4'-メチレンビス(2-クロロアニリン))					化審法
9	キシレン類					化審法
10	ジクロロベンゼン類					化審法
11	N,N-ジメチルプロパン-1,3-ジイルジアミン					化審法
12	テレフタル酸					化審法
13	トリエタノールアミン					化審法 化管法
14	(E)-4-(2,6,6-トリメチルシクロヘキサ-1-エン-1-イル)ブタ-3-エン-2-オン (別名:ヨノン)					化管法
15	1,2,4-トリメチルベンゼン					化審法
16	二硫化炭素					化審法
17	(Z)-N,N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オレアミド					化審法
18	プロパン-1,2-ジオール					化審法
19	プロモメタン (別名:臭化メチル)					化審法
20	ホルムアルデヒド					化審法
21	N-メチルジデカン-1-イルアミン					化管法
22	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート					環境リスク 初期評価

表3 平成28年度モニタリング調査対象物質

番号	調査対象物質	調査媒体			
		水質	底質	生物	大気
1	総 PCB				
2	ヘキサクロロベンゼン				
3	クロルデン類(5物質)				
4	ヘプタクロル類(3物質)				
5	ヘキサクロロシクロヘキサン類(4物質)				
6	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が4から10までのもの)				
7	ペルフルオロオクタンスルホン酸				
8	ペルフルオロオクタン酸				
9	ペンタクロロベンゼン				
10	エンドスルファン類(2物質)				
11	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類(5物質)				
12	総ポリ塩化ナフタレン				
13	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン				
14	ペンタクロロフェノール類(2物質)				
15	短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10から13までのもの)				
16	ジコホル				